

東京 TS ネットセミナーVol.15 開催レポート（2024 年 12月14日開催）

12月14日（土）に開催された、東京 TS ネットセミナーvol.15「カミングアウトジャーニー上映会&クロストーク」に参加させていただきました。

「カミングアウトジャーニー」は、福生さんが友人や恩師、家族に自身のセクシュアリティや依存症などをカミングアウトしていく様子を写した映画でした。詳しい内容は、本編を見ていただけたらと思います。

最も印象的だったのは、福生さんがおっしゃっていた、「カミングアウトすることで人間関係を築いている」という言葉でした。初めは、相手の反応を見て、受け入れてもらえたら今後も関係を続けていくという受動的なやり方に感じ、少し違和感を覚えました。自分が関係を築きたいと思っている相手を疑い、試すようなやり方には、あまり共感はできませんでした。しかし、自分の人との関わりを振り返りながら今回のセミナーのことを考えたとき、信頼している人だからこそ、ありのままの自分で向き合いたいという前向きな意味もあったのではないかと思い始めました。自分が信頼していた相手が、カミングアウトを受け、自分の想像していた人ではなかったという恐怖がありながらも、隠しながら付き合うことはできないという強い思いが福生さんのなかにはあるのではないかと感じました。

また、今回のセミナーで終始感じたことは、福生さんがとにかく明るい！ということでした。これまで経験されていたことは、決して明るいものばかりではなかったはずが、ご自身の話をしている時や会場の方とお話されているとき、常に明るい雰囲気でした。その姿から、カミングアウトは自分の受け入れることにもつながっているのではないかと感じました。誰にでも、社会的には良しとされないようなものや考え、経験が自分の中にあると思います。それと向き合うことや、受け入れることはとても苦しいものかもしれません。しかし、カミングアウトをしていくと、嫌でもそのことと向き合うことになると思います。様々な葛藤の中、それでも自分は自分だということ、社会的にはダメだとされているものも、自分の一部でしかないを受け入れていくことにつながっているのではないかと感じました。

福生さんは「カミングアウトは絶対にした方がいいというものではない」とおっしゃっていました。私も同じように感じています。しかし、福生さんのお

話と生き生きとした姿から、もしかしたら今後、自分の人生の中でカミングアウトをする場面も出てくるのかもしれないとも感じました。自分の目指す生き方ややりたい姿に近づくために、カミングアウトはその手段になり得るのかもしれないと感じました。今回のセミナーは、そんな手段を得ることができた、私にとっての貴重な機会になりました。

今回お話していただいた福生さん、また会場やオンラインでご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

東京 TS ネット学生サポーター 堀内愛海





